

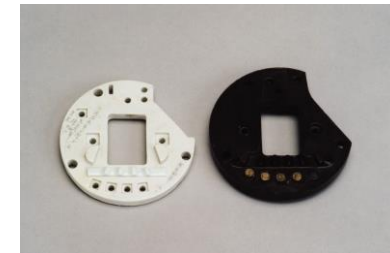
当社と「風」の深い“縁”

～窮地を救った扇風機の部品～

パナソニックの創業者・松下幸之助は、1917(大正6)年、大阪電燈を退職、借家を改造してソケットの製造を開始しました。

しかし、完成したソケットは全く売れず、苦しい日々が続きます。在庫を抱えたまま、その年の暮れが押し迫った頃、市内の間屋から「ソケットの材料の練り物で、川北電気の扇風機に使う^{がいばん}碍盤を1000枚作ってもらえないか」という注文が舞い込みました。年内の納期に間に合わせるため、幸之助は妻むめの、義弟の井植歳男と3人で昼夜問わず作業を行い、大晦日までに無事納品を完了。商品の品質が認められ、年が明けると川北電気から繰り返し碍盤の注文が入るようになり、幸之助たちは窮地を脱することができました。そして、1918年3月7日に大阪市内の大開町に居を移し、松下電気器具製作所(現パナソニック)を創業しました。

当社は1956年に、川北電気の流れをくむ会社と、扇風機の製造販売を行う大阪電気精器株式会社を設立。この会社が現在多くのIAQ(室内空気質)製品を手掛けているパナソニック エコシステムズになりました。



(左)従来の陶器製の碍盤、割れやすいことが欠点だった(右)改良ソケットの練り物でつくった碍盤



碍盤は、扇風機本体にスイッチを取り付けるための部品(絶縁盤)で、底部に格納されている